

# 新規採用教員へのインタビュー



竹村 美輪 たけむら みわ

県立勝山高等学校(蒜山校地)教諭  
(令和3年度採用)

自己紹介

昨年4月に高等学校教諭として採用され、1年生の担任と、全学年の家庭科の授業を担当しています。自分自身が学んだことのない専門科目の授業も多くもっており、日々教材研究をしながら授業をつくっています。季節を感じられることをするのが好きで、夏はマリンスポーツ、秋は紅葉狩り、定期的に道の駅で旬の野菜や果物を買うなどをしています。

**Q** 教員を目指した理由を教えてください。

高校時代、将来は人と接する職業に就きたいと考えており、担任の先生の薦めもあって、大学の教育学部学校教育教員養成課程小学校サブコースに進学しました。大学時代、自分は本当に教員に向いているのか、自分は本当に教員になりたいのかを確かめたく、できるだけ子どもと関わる機会を持ちたいと宿泊研修や放課後児童クラブのボランティアに積極的に参加しました。その中で、自分との関わりで子どもが成長していくことに喜びを感じ、教師になりたいと強く思うようになりました。いろいろなことに挑戦し、自分の適性を確かめたかったということもあり、幼・小・中・高・特の教員免

許を取得しました。

**Q** なぜ、高校の家庭科の先生を選んだのですか？

家庭科を学ぶことで、生活を豊かにすることができると考えています。誰にとっても生活する上で、土台となるのは家庭科で教える内容であり、それらを含めるのは、高校が最後となる場合が多いからです。就職してから気づくのでは遅く、高校でしっかり身に付けさせたいと考えて選びました。また、自分自身の生活をより豊かにするために、生徒と共に家庭科を学び続けたいと思ったからです。

**Q** 実際教員になってみて、どうでしたか？

子どもは可愛く、素直な反応をしてくれます。授業の内容が分かりやすいと盛り上がり、わからないければつまらなそうにします。だから、しっかり授業しないと、という気持ちになります。授業中に生徒から質問が挙がるなど、生徒の学ぶ意欲が見られたときには嬉しくなり、教

員になってよかった、もっと教科指導を頑張りたいと思います。

**Q** 仕事の中で気をつけていることは何ですか？

生徒と関わる上で、「生徒を平等に見る」ことを、当たり前でできるようにしたいと思っています。手がかかる生徒に目がいきがちですが、生徒一人ひとりの様子をしっかり見ることを心がけています。先入観を持つことなく、子どもたちの特性を的確に捉えて関わりたいと考えています。

**Q** 目指す教員像を教えてください。

しっかりとした教科指導のできる教員になりたいと考えています。授業1時間1時間を大切に、その授業で自分は何を学んだのか、どの生徒に尋ねても答えることができる授業を目指しています。初任者研修において、元指導教諭の先生の授業を参観しました。その中で、「生徒に繰り返し授業の目標を伝えることで、生徒自身に授業のゴールを意識させる」ことが大切であると感じ、常にそのことを心がけて授業をしています。

**Q** 教員採用試験の対策について教えてください。

10年分の過去問を解いて、同じ内容のものをノートにまとめるなど、出題傾向を分析しました。県外の大学に通っていたので、岡山県の情報はなく、岡山近県の出題を参考にしました。面接対策としては、指導教官との面接練習の様子を複数の同級生に見てもらったり、「人に見られることに慣れる」「場数を踏む」ことを意識して練習しました。

また、中学時代の恩師にいただいた「コツコツは勝つコツ」という言葉を念頭に置いて、毎日地道に対策しました。試験日までのカウントは、「努力の成果を出し切る日まで〇日」と設定していました。

**Q** 休みの日は、どんなことをして過ごしていますか？

週末には、パン屋とカフェを巡っています。コロナ禍なのでテイクアウトか一人ですが(笑)。また、体を動かすのが好きで、ランニングをします。おかやまマラソンにも出場予定でしたが、中止となつて残念です。せつかく蒜山にいるので、冬には、スノーボードにも挑戦したいと考えています。